



人間相手の仕事は、  
決まりきった対応ではダメなんです。

後藤 あかり さん

心理学部 心理学科 2012年入学  
大阪府立久米田高等学校 出身

※実習先：NPO 法人いばらき 認知症対応型デイサービス「いっぷく」

※実習期間：2014年8月25日～9月16日（実働15日間）

## 福祉という自分にとっての別世界に、あえて飛び込んだ。

インターンシップの実習先は認知症の方のための施設。福祉業界は私にとってまったく知らない世界で、認知症の方と会いするのも初めてでした。そうした違う世界を経験することで視野を広げられるのでは、と考えて参加を決めました。

1日の標準的なスケジュールは、朝8時15分に出勤、ほどなく朝礼で1日の行動計画を共有。9時頃から利用者さんが集まりだし、その対応や散歩の同行をして11時30分に昼食の配膳に取り掛かり、食事。お昼は利用者さんと一緒にいただきます。午後からは14時に利用者さんを連れて車で少し遠方に外出。15時30分には施設に戻って体操。16時頃から帰宅が始まって、17時に掃除と日誌書きで終了。私の役割は、それらに終日立ち会って利用者さんのお世話にあたることです。最初は認知症の方とのコミュニケーションに戸惑いました。それでも、せっかく自分から飛び込んできたのだから積極的に働きかけようと心がけていると、次第に対応の仕方がわかってきました。認知症を患っていても、人間としての尊厳や文化は決して失ってはられませんし、皆さんとても人間味のある方々です。また、利用者さん同士にも人間関係が存在します。そうしたことにも配慮しながら、臨機応変に行動することが私の役割だと自覚できるようになりました。人間が相手の仕事は、決まりきった対応ではうまくいかない。現場に身を置いて、それを実感しました。

代表の太田さんは、多忙な中でもインターンシップ生の動きをよくみてくださっていました。期間の半ば頃、太田さんから「多くの利用者さんがおられる環境で、最初は1対1のかかわりが精一杯だったけど、最近は全体像をみて接してくれるようになった。利用者さん個々の性格にも気を配れるようになった」と評価してくださいました。

この実習では、実習先の施設を紹介するパンフレット作成の業務も担当しました。施設の理念や概要を地域に発信するためのツールで、実際に使用していただくものです。パンフレットをつくるには、私自身が施設の取り組みを理解している必要がありますから、実習で感じたことを整理する良い機会にもなりました。

## 働くことの楽しさも味わえた。

インターンシップ終盤には新たな目標を立てました。この施設は外出やイベントの機会が多く、転倒などのリスクがあるにもかかわらず、毎日の散歩に加えて、自然のある場所や商業施設などに利用者さんを度々お連れします。施設内でも外部から演奏家を招いて音楽会を開くなど、利用者さんのために全力を尽くしている姿勢が感じ取れました。だから私も、利用者さんに少しでも良い刺激になるコミュニケーションができるようにかかわっていかうと決めました。

3週間のインターンシップが終了したとき、終わったことの寂しさと達成感が同時にこみ上げてきました。認知症患者という私にとっての“他者”とのかかわりを通じて、相手をよく知ることや臨機応変な対応の重要性、働くことの楽しさを味わうことができました。人生の大先輩からそのような大切なことを学ばせていただき、とても感謝しています。

### 《受け入れ先の声》

学生たちの成長は素晴らしかった。

今回のインターンシップを通じて、福祉現場の内側に入って職員や利用者さん、および利用者さんのご家族とも接していただきました。同じ茨木市にこのような施設があることを知ってもらうと共に、病気や障がいを抱える人たちの生活実態をみて、福祉に対して何らかの問題意識を持つきっかけになれば嬉しく思います。今回参加してくれた学生たちの成長は素晴らしく、最初は戸惑うこともあったでしょうが、徐々に仕事に慣れ、一人の利用者さんと会話しながらでも他の方にも目を配れるようなかかわり方を自分で身につけていました。認知症の方でもアプローチ次第で相手を笑顔にできることを理解してくださったのではないのでしょうか。また、若い大学生が施設にいただけで利用者さんにとって、良い刺激になります。こちらとしても非常にありがたく、今後もこのインターンシップ受け入れを継続していきたいと考えています。



NPO 法人 いばらき  
代表 太田 伸一 様